

北海之光

4月号 北海道教区報

主はわたしたちに道を示される
わたしたちはその道を歩もう

イザヤ書2章3節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

「受苦を記憶し続けること」

聖マーガレット教会 牧師補

札幌キリスト教会 協働

執事 エリサベト 三浦 千晴

例年より早い雪どけとともに、今年も新たな「時」を迎えました。私たちの新たな「時」は、イエス様の受難を記憶することから始まりま

督の兵士たちがいました。彼らは、イエス様の着ている物を剥ぎ取り、侮辱し、あらゆる暴力の限りを尽くしました。まるで自分たちの鬱憤を晴らすかのように。彼らはそ

子ろばに乗ったイエス様は、シユロの葉を持った人々の歓声の中、エルサレムに入城されます。しかしその人々の声は、やがてイエス様を罵倒する声へとあつさり変わります。時の世を司る者たちによつて捕えられ、死刑の判決を受けたからです。しかも当時最も残酷で、侮辱的な処刑法であった十字架刑に。それほどまでに人々は、イエス様を憎んでいたのでしょうか。

は、イエス様によって病が癒され、失った命をも回復していただいた多くの人々もいたことでしょうか。イエス様より、永遠の命に至る水を与えていただいたサマリヤの女。

遠くから、近くから、大勢の人々が注視する中を、イエス様は重い十字架を背負い、ゴルゴタの刑場へと歩まれます。何も言わず、沈黙のまま。イエス様のすぐ側には、総

罪に陥れ、死刑に処するためにも、群衆を扇動しました。彼らもまた、イエス様を排除することにより、逆にイエス様の十字架に引き寄せられていった者たちの集まりです。イエス様の十字架の周りには、イエス様によって病が癒され、失った命をも回復していただいた多くの人々もいたことでしょうか。イエス様より、永遠の命に至る水を与えていただいたサマリヤの女。

ベトザタの池で、三八年間もの病苦から解放していただいた者。エルサレム神殿の境内で、石打ちの刑から救い出され「あなたを罪に定めない」と言われた女。シロアムの池で癒されて、初めて目が見えるようになった者。死の淵から生き返ったラザロとその姉妹マルタとマリア。その他イエス様によって新しい命を与えられた多くの人々は、イエス様のお姿を一目見ようと刑場への沿道に立ち、涙を流していたのではないのでしょうか。イエス様の十字架の道行きと死は、これらの者たちにとつても苦しみになったはずです。この苦しみをともに憶えることによつて、そこにいるあらゆる人々は結ばれました。

苦しみを憶えること、その受難の記憶から生まれた意識は、人々に新しい形の連帯へと導く機会を与えました。ガラヤヤからイエス様に従ってきた女性たちは、イエス様が十字架につけられ、息を引き取られる様子を遠くから痛みを持って見つめていました。

彼女たちは、この出来事も一度自分たちの一部として取り戻すために、イエス様が葬られた墓に急ぎます。そして受難を記憶すること、苦しみを共有することで、彼女たちはイエス様の言葉を思い出します。「人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになったりしている。」このことを想起することにより、彼女たちは、苦しみを共有する共同体となり、全体を変えていく力を持つものとなりました。「イエス様は復活なさつて、もうここにはいない。」このことを知った体験は、彼女たちだけの体験を超えて、共同体全体をも変革する言葉となつていきました。

主イエスの十字架への道を私たちともに歩み、その受苦を記憶し続けることによつて、私たちの魂のあり方も形作られます。「力は弱さの中でこそ十分に発揮される」とパウロに語る復活のイエス様を仰ぎ見ながら歩み続けま

—心の窓をひらく—

福音と私(二六八)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

北海道教区 司祭

フランシスコ 飯野 正行



【好きな聖句】

「わたしは道であり、真理であり、命である。」

(ヨハネによる福音書一四章六節)

ももひきの上から半ズボン履いて鼻垂らしてほっこ振り回して走り回る正行少年は、札幌市東区北一八条東三丁目生まれ育ちました。幼い頃はまだ「区」にはなっていないのでした。札幌市立美香保小学校、美香保中学校です。美香保公園は遊びの「縄張り」でした。



らったり、映画会のようなものに参加した記憶が薄つすらと残っています。

もしかすると時間が前後するのかもしれないのですが、三人のシスターが父にイースターエッグを渡しているのを見たことがあります。決して父はクリスマスチャンではありませんでした。天使短大(教会)に使用済切手をいつも贈っていて、その御礼だったようです。

それからしばらく信仰とは無縁な生活に入るのでしたが、北星男子高に入学してからは、キリスト教にかなり具体的に接することになります。礼拝があり、聖書の時間もあり、教会住所録も渡されたりしました。大きな教会に通ったりもしたのですが「若気の至り？」で一年で辞めてしまいました。「解放された気分」で生活していたのですが、ある日列車の中で一人の牧師さんとの出会い、その日以来その先生の教会に通うようになりました。そんな高三のある日、友人

から貰った信仰書を無造作に開くとそこにキリストが両手を広げている絵があり、下の方に一つの言葉が印刷されていました。「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネ一四章六節)。この言葉に接した時、どうしたことか、心が静かに下がって行くように感じ、表現できない静寂が私を覆い、胸がいつぱいになりました。そして、イエス様を信じている自分を発見したのです。そして、良くわからないけれども、とにかくイエス様について行こう、イエス様の素晴らしさが現わされるために生きて行こうと思ふようになって行きました。

高校を卒業して幾つかの職につき、北海道聖書学院に入学し、三年間学びと訓練を受け、プロテスタントの所沢の教会の副牧師となり、出身教会の事情で一年で帰道し、仕事をしながら奉仕をさせていただいていたのですがうまく行かず、サマリヤ館の教育主事として働き、この間、結婚の祝福をいただくのですが、

妻の切迫流産で辞めざるを得ず、「食いつないで」いる時に一つの教団からお話がありそこに加わらさせていただき、九年間夕張と岩見沢の牧師として仕えておりました。この時に、何故か、聖公会へと導かれるのです。何かに動かされているかのようにです。

聖公会の交わりに加えていただいてからは、二年間の一般の仕事を経て、ウイリアムス神学館で一年間学び、修了して深川五年、網走七年、マーガレット二年、北見四年、今また網走にいてオホーツク三教会にお仕えております。

「ハチャメチャな経歴」を持つ司祭ですが、皆様の寛容と忍耐によって受け入れることができ、教会に仕えることが許されておりますことを感謝しております。貧しさを担う小さき者の私ですが、今もこの御言葉が心に響いています。

「わたしは道であり、真理であり、命である。」

(ヨハネ一四章六節)

常置委員会報告

第五回 三月二二日

協議事項

一、教区礼拝の説教者に、東北教区の長谷川清純主教被選者をお招きすることとした。二、「出会いと交わりの日」を、六月二五日に開催するこ

ととした。

三、「エキュメニカル・ミッシェン北海道」の担当司祭に、下澤昌司祭を選任した。

四、五月に開催の奏楽者クリニックに対して教区より補助することとした。

五、四月からの教区事務所新体制について承認した。

教区礼拝のお知らせ

開催日時 五月二〇日(土)

午前一〇時三〇分

説教者 東北教区主教被選者

フランシス長谷川清純司祭

*礼拝後、軽食を取り、ミニバザー、餅まき等が予定されています。



主教室から

雪景色の札幌の三月上旬のある日、教会の窓の外を眺めながら、もう春だねえと、ある方がおっしゃるのです。それを聞いたわたしは心の底から驚きました。いえいえ、まだ外には雪がびっしり高く積もり、歩道も朝夕の寒さでつるつるに凍り、最低気温は氷点下です。これを冬と言わずに何というのでしょうか。

けれどもそこにいらした方々は口々に、いえいえ、もうこれは春です、とおっしゃいます。雪が降っても雪かきをしなくて良くなってきたでしょう。昼間の陽射しで歩道の雪が溶け出してぐちゃぐちゃになってきたでしょう、と。厳しい寒

さと雪の中にあっても小さな変化を読み取り、先に向かって喜びと希望を語るその方々の姿に、わたしは再び驚くと同時に、強く励まされる思いがしました。確かに最近教えてもらった根拠も、あちこちで目につくようになり、周囲をじっくり観察すると春はもう来ているのです。

北の大地に住んでいると、春が待ち遠しいと自然に強く思います。今年は春が早くやって来たと言え、嬉しそうに語ります。しかしそこにたどり着くのは長い冬を経なければなりません。厳しい自然の中で生き抜く知恵と忍耐、今は何も生み出さないような冷たい雪に覆われているけれども春は必ずやって来るという確信と希望、雪が溶け出

すことで隠れていたものがすべて顕わになっていく過程を受け止める強さと柔軟さ。まるで神様との関係が問われているような時間が流れていきます。

寒さだけではなく、この三年以上のコロナ禍で、わたしたちはずっと体を強張らせて過ごしてきました。失ったものが大きすぎて、振り返ると涙と痛みと悲しみで覆われそうです。けれども春が必ずやってくるように、少しずつその状況から抜け出せる時はやって来ます。そしてこれまでとは違う新しい世界へと、わたしたちはすでに歩みだし始めています。そこに復活のキリストが待っていてくださることを、切に祈り求めます。

義 マリア・グレス 笹森 田鶴

全国青年大会七年ぶりに開催!

青年たち、集まれ!

八月三十一日(木)〜九月三日(日)、東京上野ユースホステル及び日本聖公会神田キリスト教会にて全国青年大会が開催されます。案内文冒頭にはこのように書かれています。

「またね!」という挨拶を私たちは日常的に交わします。当然また会える日が明日やってくると思っていました。しかし、コロナ禍はみんなが集まって、顔をみて、会話をし、食事をし、思いを分かち合う何気ない日常をわたしたちから奪っ

ていつてしまいました。(中略)。「集まる」ということがいかに大切で大きな恵みであったことを今思います。そしてもう一度集まりたいと思いました。」

テーマは「わたしたちは、誰と一緒に、食卓を囲み、どのように歩むのか」。スピーカーに西原廉太中部教区主教をお招きします。北海道教区の青年は上平更司祭(青年担当)を通してお申し込みください。詳細は各教会配布のちらし・案内文をご覧ください。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

五月一〇日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 岩田 慶次郎

一九六〇年五月八日

伝道師 山田 致人

一九〇二年五月九日

伝道師 伊勢田 清美

一九三七年五月九日

伝道師 ペネロピー アン

フィッシュヤー

一九八九年五月一日

司祭 三澤 康二

二〇二二年五月一日

司祭 佐藤 信康

二〇〇九年五月一日

伝道師 エデイス ルイーザ

ベアトリス ノートン

一九五二年五月八日

司祭 與賀田 千秋

一九九七年五月二八日

司祭 伊東 松太郎

一九三七年五月三日



をするの?」
という思いを抱か
れている方もい
らっしゃると思
います。

日本聖公会の今後の歩みを
考えるすべてのプロセスは神
の国を目指す旅であり、祝福
されていることを皆さんと分
かち合いたいと思います。協
議会が私たちにとって希望と
なり、神様からの祝福を感じ
られる機会となり、私たち一
人一人が元気になりたいです
ね。そしてその「元気」を一
人でも多くの方々と分かち
合っていきたいと思っていま
す。旅には喜びもたくさんあ
りますが、苦難もたくさんあ
ります。その苦難を乗り越え
て旅を続けていくためには希
望が必要です。宣教協議会の
主題聖句は、「私はぶどうの
木、あなたがたはその枝であ
る。人が私につながっており、
私もその人につながっていれ
ば、その人は豊かに実を結ぶ。
私を離れては、あなたがたは
何もできないからである。」
(ヨハネ一五・五)です。神
の国を目指す旅は、イエス様
を離れては続けられません。
どうぞ、私たちがイエス様か

ら離れずに旅を続けていくこ
とが出来ますようにお祈りし
ます。「清里への道」が祝福
されますように。

宣教協議会「清里への道」

今年の一月一〇日(金)

〜三日(月)に山梨県清里
にある清泉寮で開催される

「日本聖公会宣教協議会」に

は各教区から教区主教、宣教

担当を含めて八名、そして日

本聖公会総会で定められた各

委員会などの諸部門の代表、

そして実行委員が集まる予定

です。そして、協議会のプロ

グラムの多くはオンライン配

信を予定しており、実際に清

里に集まるメンバーだけでは

なく日本聖公会につながる皆

さんと一緒に時間を共有し、

今後の日本聖公会の歩みにつ

いて思いを深め、共に歩み出

していききたいと願っていま

す。

各教区からの参加者、各委

員会などの諸部門からの参加

者が決まりつつありますが、

参加者を対象とした「宣教協

議会参加者オリエンテーショ

ン」を四月三日(日)と四

月二十七日(木)の二回に分け

てオンラインで行う予定です。

今年度の秋に清里に集まる

までまだ半年以上あります

が、すでに宣教協議会は始

まっています。参加される方

ができる限り情報を共有し、

清里での宣教協議会までそれ

ぞれの教区や諸部門で準備を

して頂き、気持ちを醸成しな

がら「清里への道」を歩みな

がら準備をしていききたいと

思っています。

参加される方の中には、ま

た参加されない方も「宣教協

議会って何を協議するのだ

ろうか」「清里に集まって何

オリエンテーションではそ

の疑問について丁寧に分かち

合う予定です。前回のぶどう

の枝だより⑥で実行委員長の

磯主教様が「聖公会は神の国

に向かって歩む旅人であり、

正に私たちは今、希望を持っ

て神の国へ歩む旅人としてこ

の宣教協議会を目指していま

す。その旅はこれからのため

の旅です。」と仰っておられ

ます。宣教とは、神様が主体

となつてなされる神の国の完

成を目指す絶え間ない働きで

あり、私たちはその働きに招

かれていきます。そして、その

招きに応じて神の国を目指す

旅をしています。神の国のし

るしはこの世界の中にありま

す。それに気づき、発見する

ことによつて私たちの心が開

かれ、育てられていくことを

願つて協議会が行われます。



磯主教メッセージの動画



「チーム北国」について

東日本宣教協働委員・「チーム北国」メンバー
札幌聖ミカエル教会

グレゴリー 大友 宣

このキリストによって、私たち両方の者が一つの霊にあって、御父に近づくことができます。

(エフェソ二章一八節)

日本聖公会は、総会決議によって三つの宣教協働区(東日本・中日本・西日本)を設置し、宣教体制強化と教区再編に取り組みはじめました。

東日本宣教協働区は北海道・東北・北関東・東京の四教区で構成され宣教協働委員会が開催されています。北関東と東京は合同で新教区を設立しようとして動き始めました。北海道と東北は二〇二二年の両教区会で東北教区・北海道教区宣教協働タスクフォースを設置しました。名称を「チーム北国」として、三月より開始しました。

二つの側面から活動を進めることにしました。一つは宣教協働・教区再編にはどんな



メリットがあるか、どうして今必要か、どのようにして進めるか、といったアタマを使う作業です。もう一つは実際に会い、交わり、一致していくというカラダを使う作業です。五年間を目前に工程を作り始めました。

メンバーは東北教区から長

宣教一五〇年実行委員会だよりⅡ

司祭 サムエル 吉野 暁生

谷川清純司祭(主教被選者)、八木正言司祭、赤坂有司さん、坂水かよさんです。北海道教区から大町信也司祭、吉谷かおるさん、大友宣です。両教区主教が陪席されます。これから月一回のチームミーティングを重ねながら、議論を

め、深めます。今年度から様々な場面で実際に東北教区と北海道教区で交流や宣教協働が行われるようになります。パウロはユダヤ人と異邦人がいる教会が、一つになるため働きました。一つになることで御父に近づく語りま

す。両教区は歴史や文化が違います。広大な大地に小さな教会が散在します。そのような多様性の中の一一致と、弱さの中の一致を求めるとき、パウロと同じように、私たちは信仰の原点を見つめ直すことになります。

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。先月は「記念聖歌の歌詞公募」や、「福音と私」の書籍化などのお知らせをさせていただきました。プロジェクトは徐々に進んでいます。楽しみにお待ちください。歌詞公募はワンフリーズだけでも、単語一つでもいいので、ぜひ応募してみてくださいね。

業で使われる予定です。現在、中部教区の信徒である松村希さんに作成をお願いしています。松村さんは管区青年委員会のメンバーでもあり、東日本大震災支援「いっしょに歩こうプロジェクト」のロゴマークを作成してください。また、胆振東部地震の際にボランティアとして参加してください。北海道とも関係が深い方です。この度青年たちのつながりの中で引き受けていただくことになりました。

ただく二つの案から、どちらか好きなほうに投票していただきます。教区礼拝当日の投票だけでなく、各教会でも5月いっぱい投票していただけるように準備中です。みなさんのお力をぜひお貸しく下さい。

さて、宣教一五〇年実行委員会からみなさんをお願いしたいことがあります。それは、宣教一五〇年記念のロゴマークの選定です。このロゴマークは、これから行われるすべての宣教一五〇年記念事

に、松村さんに作成して

また、今年の教区礼拝の時には、もう少し宣教一五〇年記念事業の概要が固まっている予定です。記念事業のための献金もその時に発表します。シンポジウムや講演会、黙想会などもスタートできればと思っています。宣教一五〇年は一つの区切りですが、そこで終わりではなく、そのあとも二〇〇年、三〇〇年と続いていきます。一緒にこれからの未来を創っていきましょう。



▽旭川聖マルコ教会

コロナ感染症で三年間出来なかつたマルコ食堂を月一度開催することになり、一二日にしました。皆が待っていただけに楽しい交わりの時間を持つ事ができました。

レントの集いは、礼拝後一二日「葬儀への備え」、一九日「信仰のデザインノート」について永谷司祭の解説で学ぶ機会が与えられました。誰にもでも訪れる最後の時について、この大斎節期間中に考え祈る時を持つ事が出来ました。

保育園は一日、二名の園児の卒園式が行われました。二八日は婦人会のメン

バーとのクッキングがありました。おやつのマドレーヌを、卵を割ったり、真剣に楽しそうに作りました。卒園児のこれからの新しい歩みも神様の見守りがありますようにお祈りします。

▽岩見沢聖十字教会

三月は別れの季節。幼稚園では一六日、卒園式が行われました。教会から巣立つ三二名に花一輪を贈りました。

一九日、池田亨司祭司式による聖餐式。主の流された血潮と肉の痛みを覚えて、記念のパンと杯の恵みに与りました。その後、定例の教会委員会。司祭より今後の予定の報告がありました。第五主日の月は、永谷亮司祭に奉仕をして頂ける事になりました。

この冬は雪融けが二週間程早いようです。園庭の雪も随分と少なくなりました。遂に岩見沢にも春到来です。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)

今月も何かと忙しい月でした。三月三日の世界祈祷日礼

拝。オリーブ会の荒井めぐみ姉からは、「パウロ教会から四人の信徒が出席しました」との報告が。また一〇日は頌栄保育園の卒園式。出席した教会委員の春田佳恵姉は言います。「とても感動的な卒園式でした。ことに聖歌斉唱が透き通って、思わず涙が出るほどでした。きつと指導が素晴らしいんですね」。

三月一二日、大斎節第三主日礼拝後は、毎月一回の「教会問答あれこれ」勉強会の日。この日は使徒信経「使徒たちよりの唯一の聖なる公会」の部分。「唯一」とは、あくまで「自分にとつて」という基準で判断すべきこと。他の信仰を簡単に否定すべきではないこと。そして、「聖公会」の名前は信経の「聖なる公会」から取られていることなどを学び、改めて理解を深めることが出来ました。

二六日の礼拝後は皆で棕櫚の十字架づくり。コロナの行動制限解除により、作業は和気藹々と。折り方に四苦八苦しながらも久々に楽しい時間となりました。

▽帯広聖公会

三月に入り雪解けが急速に進みました。一二日、阿部司祭の司式により、伊藤和浩さんの洗礼式が行われました。新しい仲間が加わったことを主に感謝します。二六日、阿部恵子司祭の送別会が行われました。一時無牧となつた帯広聖公会に赴任いただき、四年間信徒と交わっていただいたことは本当に感謝です。健康に留意され、これからの札幌での信仰生活を祈念いたします。併せて松田桃子さんご家族の送別会も行いました。小さな子どもたちの声がする礼拝をありがとうございました。

▽稚内聖公会(伝道所)

三月一九日(日)、まだ固い雪が残っている頃でしたが、笹森主教様の巡回をいただき、主教の夫の沼原さん、仕事で中川町に滞在中の東京教区の信徒さんも加わってくださり聖餐式をお捧げすることが出来ました。礼拝後にはティータイムの交わりが与えられ感謝です。二月の礼拝のときにはトイレの便座内の水が凍っていたことがわかり、

便座が割れていないか心配でしたが、無事で安心。来月は四月一四日(金)にイースター礼拝が予定され、永谷司祭離任前最後の礼拝となる予定です。

▽苫小牧聖ルカ教会

立派に成長した聖ルカ幼稚園の子どもたちが、希望に胸を弾ませながら、元気に巣立って行きました。大斎節の行事として、当教会では数年ぶりに家庭集会を行いました。唱歌から讚美歌へというテーマで数曲を歌い、楽しいひとときを持ちました。有志で礼拝後棕櫚の十字架づくり。毎年作り出しは思い出すのに時間がかりますが、無事に作り終えることが出来ました。今年は雪解けも早く、花壇にはチューリップや水仙の芽、木々も蕾がふくらみはじまりました。今年もお庭で咲いた花々が祭壇に飾られる日

▽函館聖ヨハネ教会

お隣のハリストス正教会の大規模な修復工事が終わり、陽光に誘われて当教会にも観光客が増加。大斎節中三週に

わたり十字架の道行きをスクリーンを見ながらイエスの受難を心に刻む。有志で礼拝前後に棕櫚の十字架作り。本誌三月号「主教室」から、この棕櫚が東京聖三一教会の皆さんが心を込めて北海道教区へ送ってくださっていることを知り、深く感謝。一九日、グレース田畑道子姉ご逝去(九四歳)。二一日、藤井司祭司式による葬送式・埋骨式。姉の魂の平安と光明、ご遺族へ神様の慰めをお祈りする。トルコ・シリア地震の救援金を日本キリスト教協議会へ送金。

▽札幌キリスト教会

五日前「子どもの教会」をZOOMも併用して実施し、二六名が参加。同日午後、GFS例会と大学進学で函館に行く宮本樹さんの壮行会。二二日午後、教会委員会開催。定例議事のほか、立ち上がったばかりの「建物保全委員会」の今後の活動計画、遺贈献金の扱いなど、教会の将来に関わる重要事項の話し合いを行う。一九日の聖餐式後、二月二二〜一九日にガーナの首都アクラで開催された全聖公会中央協議会(A.C.C)に代表として参加した吉谷かおる姉による報告会が開催された。日本からの会議参加者は上原榮正主教と吉谷姉。世界の三九管区から一一〇名の参加者が集い、礼拝、聖書研究、共通課題に関する議論が行われたとのこと。二六日は聖餐式後に棕櫚の十字架作りを行った。

▽新札幌聖ニコラス教会

二月二六日より礼拝後、大齋黙想を実施。「キリストの手」「キリストの顔」「キリストの声」「詩編五一編」をそれぞれに思い巡らし聖週への備えとした。受洗希望者が一人与えられ、復活日に洗礼式を予定。日々忙しい中この期間を共に信仰について共に祈り、学びの時を持ってきた。教会玄関の雪除けの板を取り外し、軒下のクロッカスと毎朝挨拶をする季節。もうすぐ春ですね。

▽聖マーガレット教会

いつもより暖かい三月でしたが春は別れの季節。三月二日、川田憲治さん逝去。もう

一度鉄琴の演奏を聴きたかったです。一九日は下澤司祭が九ヶ月間協働牧師としてお働きくださった最後の日。礼拝後に送別の愛餐会は三年振りに行われ、皆さん静かに語られる説教を聞けなくなるのが寂しいと話しておりました。一九日は小貫愛子さんが信徒奉事者、二六日は竹内陽太郎さんがサーバーとして初奉仕。感謝です。一四日、吉谷かおるさんを迎えて世界祈禱日の祈りの会。二六日は礼拝後に棕櫚の十字架作りと、四年振りに聖歌隊が集まり練習を始めました。

▽札幌聖ミカエル教会

三月五日(日)、聖餐式中で世界祈禱日を覚えて台湾の女性たちのために祈りを捧げる。聖ミカエル幼稚園は六日に卒園進級礼拝、チャプレンが卒園児一人ひとりの足を洗って祝福を祈りました。二二日、卒園児の日曜学校へのお迎え式、この日は四五名のこども、お母さん、先生たち大人三五名の出席があり、日曜学校に繋がることを願いました。卒園式は一六日、

三一名の子どもたちが巣立ちゆく。二六日はエンジェルウイングス(中高生会)を開催、久しぶりに一〇名以上の出席あり。一五日、セシリア秋江由美子さんが帰天、八四年の地上のご生涯でした。主のみ光と平安がありますように。

▽網走聖ペテロ教会

三月、初めて駐車場の雪が全て消えています。大斎家庭集会が一六日に、牧師館を会場にもたれました。コロナ禍における「弱さ」の黙想のテーマで飯野司祭のお話の後、それぞれの思いを分かち合いました。佐藤環さんは御自分のお母様の最期にコロナ禍で付き添えなかつた悲しさ、愛一・富子御夫妻の最晩年の介護の様子をお話しくださって、「神様は、出来ないことは与えない」と、元気に締め括られました。ペテロの会では、祭壇とベストリーのワックスがけをしました。

▽平取聖公会

三月二六日礼拝後に信徒五人で棕櫚の十字架づくりをしました。一年経っているのに

すぐにつくり始める人、つくり方の絵を見てもなかなかできない人いろいろでした。バチラー保育園の新園舎が完成し、三月二八日に無事引き渡しを受けました。四月三日の入園式に向け引越し作業と準備が大変です。

記者は昨年一月、膝の手術のために一カ月入院しました。聖歌集を持っていき一番から進めましたが、リズムが思い出せずスマホに頼りますと、出てきたのは東京の葛飾茨十字教会で奏楽される小貫ツマ司祭でした。びっくりしましたがとても嬉しかったです。

▽有珠聖公会

三月二六日、大斎節第五日の聖餐式を捧げました。礼拝後、堅信受領者総会を開催。昨年度の恵みを確認し感謝しつつ、新年度の展望について語り合いました。有珠にしては例年になく雪の多い冬でしたが、一方、春の訪れは早く、農家の信徒家庭は春耕にいそしんでいます。四月から、土曜日のバチ

ラー夫妻記念室の開館事業が始まります。

▽留萌キリスト教会

雪融けが早くても寒かった三月。管理牧師を務めておられた永谷亮司祭が、異動を控えて主日礼拝の司式・説教をしてくださいました。弱さを持った私たちですが、春一番に咲くクロッカスのように神様の御恵みの下で逞しく生かされたいと願うお説教でした。感謝いたします。

冬の修理品への支出が重なりましたが、ストーブも湯沸かし器も新しくなり快適になりました。コロナ禍で縮小していた礼拝や活動を少しずつ回復する中で、明るい兆しを感じています。

▽新冠聖フランシス教会

三月も末になり、教会の水道の元栓やトイレの暖房のチェックをしなくてもよい季節になりました。毎度、最後の点検をしてくださった内海司祭さまに感謝致します。

教会の廻りの木々は芽をのぞかせたばかりで、祭壇うしろの窓からは日高山脈をくつきり眺める事ができます。

昨年暮れ以来、信徒の仲間幾人かが体調を崩し、自宅療養を余儀なくされておりますが、桜の花が見られる頃にはご一緒に礼拝できますよう願っております。三月二六日(日)大斎節第五主日礼拝には、三浦すみ子姉がお赤飯を持参してくださり感謝でした。

▽紋別聖マリヤ教会

三月に入り雪解けが一気に進み、春の訪れが今年は早いような予感で心がワクワクします。一二日は主教巡回による主日礼拝、聖餐式。お説教の中で、日曜日に教会で礼拝の奉仕をしているのは私たちのみならず、神様もまた私たちのために奉仕してくださっているという言葉頂き、改めて心を整えられた気持ちになりました。愛餐会では幼稚園職員とご家族が出席してください。久しぶりに小さな子どもたちの声が賑やかに響き渡る嬉しい交わり

の時となりました。主に感謝。

▽今金インマ又エル教会

今年の今金の三月は暖かく、行者にんにく、ふきのと

うなどが出て来ました。

一二日、大斎節第三主日礼拝後、上平更司祭にオルターギルド勉強会をして頂きましたが、聖餐式のための聖卓の準備と片付けのお話を聞き感動です。今まで礼拝のたびに感謝いたします。この大斎節中の学びはとてすばらしい課題でした。信徒一同、この教会を守るんだという意気込みを感じました。主に感謝します。

▽深川聖三一教会

三月一日、保育園卒園感謝礼拝、チャプレンから光の学校の卒業証が授与される。五日、教会委員会、婦人会。一一日、第五〇回保育園卒園式、九名巣立つ。一四日、保育園職員会議、新年度の展望が話題となる。一七日、道北牧師会、主教様陪席される。永谷司祭最後の牧師会となる。一九日、復活祭案内と教会の友人たちへ復活祭のお祝

いの通信を差し上げる。一筆署す。二六日、管理牧師永谷亮司祭による主日礼拝の司式・説教。人事異動による最後のお別れ礼拝感謝。

▽室蘭聖マタイ教会

三月に入り暖かい日が続き、春を感じる季節になりました。

一二日、苦小牧より松井司祭来教、礼拝前落合敏子さんの洗礼志願式を行う。四月九日の洗礼の日を待ち望んでおります。共に聖餐に与り、その後に聖書の輪読会、委員会、四月の予定等話し合う。

大町司祭が帯広の方に異動になり、今月が最後の礼拝です。当教会の管理司祭協働司祭として一二年間お働き頂き、心より感謝致しております。とても淋しくなりました。二六日、主教様の巡回礼拝後、お弁当で昼食を共にする予定です。

▽北見聖ヤコブ教会

すっかり春の姿の北見です。三月五日、灰の十字のしるしをいただく礼拝。一九日、一年間奏楽奉仕と温かなお交わりをくださった藤井杏菜さ

んのお別れ会。寂しい限りですが杏菜さんのご健康と幸せをお祈りいたします。二二日、牧師館の給湯器の取り替え工事が行われ感謝。司祭はYMC Aの卒園礼拝、北見牧師会、網走刑務所の教誨、夫人まゆみさんのお父様の「一周忌」などがありました。

水落ししの必要が無くなり大感謝。窓の雪囲いも取り外します。本当に春ですね!

▽小樽聖公会

三月五日(日)、大斎節第二主日。聖餐式後、三月の教会委員会。連続した雪害について話し合う。お隣りの空き家の所有者に、責任ある管理と早急の撤去を願う要望書を作成、六月までに送ることを決める。

二六日(日)。聖餐式後、棕櫚の十字架を作る。Hさん指導のもと、その作り方の手順を思い出しながらの手仕事。わきあいあいの作業風景。二本の棕櫚の葉から、たくさんの十字架ができあがる。聖週が迫る。